

京都府立植物園定点観察会

令和3年3月12日金曜日

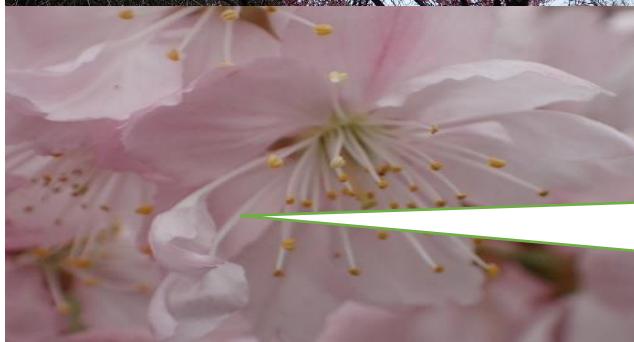
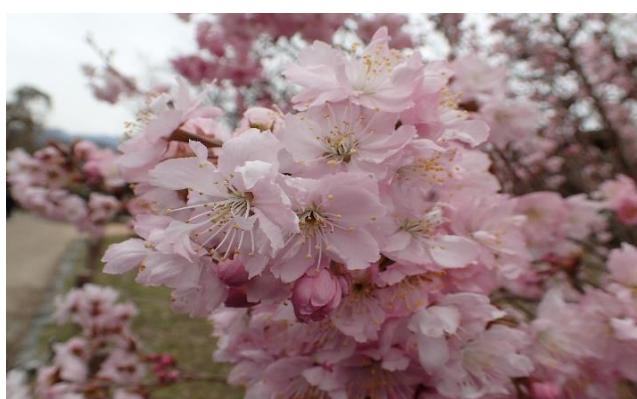
午前中は植物園職員の袴田さんの案内で「植物生態園」を回り、春の訪れを一杯感じる観察会となりました。3か月ぶりの観察会、講座生一人の参加もありました。



満開のユキヤナギにオオカマキリとハラビロカマキリの卵発見



色々な早咲きのサクラが咲き始めていました



桜守、藤右衛門さん寄贈の新品種
早咲 「彬姫桜アキヒメザクラ」

一部のおしべが花弁に変化

植物生態園見頃情報



フクジュソウ



ウゲイスカグラ



クリンソウ



白花ゲンカイツツジ



オオミスミソウ(雪割草)



コショウノキ



モミジチャルメルソウ



ニリソウ



ハチジョウウキブシ



ユキワリイチゲ



アリドオシ



ユキツバキ



フキ(雄花)



フキ雌花

ツバキの花

右は、日本に自生するツバキの代表的な3種類です。

日本のツバキ、特にヤブツバキは日本はもちろん、世界の多くの園芸品種の母体となっています。



ヤブツバキ *Camellia japonica*

一重、筒咲き～ラッパ咲き。
花が終わると花房ごと落ちます。

ユキツバキ *Camellia rusticana*

一重、平開咲き。
日本海側の多雪地帯に分布。

サザンカ *Camellia sasanqua*

一重、平開咲き。花が終わると花びらが散ります。

花形

ツバキは八重化しやすく、また50～100本ほどもある雄しべも、小さい花弁（花びら）に変化しやすい形質をもっています。



花弁（花びら）の模様

絞り 遺伝的に劣性である白花に、生育途中で優性の紅の色素が働くことで形成されます。



斑入り ウィルスの影響で、色素が作られなくなることで色抜けの花弁が形成されます。

